

「新編延岡市史編さん事業(案)」に関する意見一覧及び本市の考え方

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方
1	総論	目的、方針	延岡市が市制施行百周年に向けて、本格的な市史編さん事業に取り組むことになったことに対して、一市民として大変うれしく思います。延岡市の決断に敬意を表します。「日本一の新編延岡市史編さん事業」を計画通り行って下さい。	本市の考え方
2			本市に住む者として、豊かな歴史・文化財は大変興味があります。古代より現代に至るまでの詳細な歴史記録や文化財が収集され、後世へ継承、活用されること間違いありません。大変うれしく思います。	
3			この事業に対する前向きな取組み姿勢が素晴らしい。また、このような機会を設けていただいたことに感謝します。	
4			事業の目的と進め方に賛同する。	
5			この度、延岡市が市制施行百周年を迎える令和14年度末を目途に、新たな延岡市史編さん事業に着手することになり、市民の一人として深甚の感謝を申し上げます	
6			市制施行百周年までに計画的に市史を刊行していく前向きな姿勢を、基本的に高く評価します。基本的考え方として、市史編さんは、いわば延岡の魂、精神を明らかにする作業であり、歴史を核とする延岡の百科事典をつくることであるという認識を持っていただきたい。	
7			事業概要を読み、大変意義深く、後世に残る事業であると思います。今後の取組みに大変期待を寄せています。	
8			この度、延岡市が市史編さん事業に取り組むと表明したことは、大変、意義深いことと思います。英断に心から敬意を表します。	
9			市史が出来ることで延岡人が手に取り、読み、理解することで郷土愛、地域愛が芽生えて根無し草的な(文化面)人がハッキリとした哲学を持ち、本当の文化の香る町になることを願う。	
10			ライフワークとして中世の歴史を勉強しているが、今の延岡市史を拝見しても、残念ながら中世の記録がない。新しい延岡市史編さんに期待しています。	
11			今回の市史編さん事業は、延岡市に埋もれた史料の発掘や消え失せる伝承を聞き取り、延岡の古代からの自然、民俗、文化、歴史を市史として残すことだと思います。	
12			延岡市は、全国屈指の規模を誇る内藤家文書群、宮崎県内唯一の織豊系近世城郭である延岡城や近代の産業科学遺産をはじめ、先史時代から古代・中世・近世・近現代までの全ての時代の指標となる多彩な遺跡・史跡・文化財を有している宮崎県内唯一の都市であるが、延岡に残された先人達の遺産が、多くの延岡市民には周知されていない。 この豊富な歴史遺産に恵まれた延岡の歴史の更なる学問的解明をはかり、その成果を広く公開することで、郷土に対する市民の理解と誇りを深め、高めて、後世へ繋ぐ資産とし、「歴史文化都市延岡」の向上に資することを目的とした新編延岡市史の編纂を強力に推進することこそが、これからの延岡市および宮崎県北の次の百年を見据えた指針となります。	
13	編さん計画	編さん期間	事業概要にもあるとおり、市制施行百周年を迎える令和14年度末を目途とすることで概ね妥当と考えます。特に、県内他市と大きく異なり、例えば延岡市の場合は江戸時代の藩主家の移動と飛び地の存在により全国に関係地が散在することから、調査にも相応の期間を要すると思われます。	自治体史の編さんに当たっては、現存する文化財や発掘調査報告書、古文書など地域の歴史に関する様々な史料を調査、研究のうえ史料編を編さんし、それを踏まえて通史編を編さんすることとなります。ご指摘のように本市の歴史的な成り立ちを考慮すると、歴史資料の調査、検証およびそれらを踏まえた研究に相応の時間を要すると考えられますので、市制施行百周年を迎える令和14年度末までを目途としたところです。編さんは長期に及びますので、計画的な事業の実施と進捗管理に努めて参ります。

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方	
14		編さん方針	市制施行百周年を記念して作られる延岡市史、古代から現代までの歴史を細かく分けてやる必要があるのか疑問です。	今回の市史編さん事業は、古代から現代に至る通史の編さんを目的としており、本市の歴史を辿り、時代区分毎に濃淡はあっても時代の変遷に沿って記述することが必要と考えております。同様な自治体史編さんにおいては、例示させていただいたような内容構成をとるのが一般的となっておりますので、本市もそのような構成を考えております。	
15			市史編さんは歴史編が中心となるだろうが、最新の研究成果を生かし、延岡のアイデンティティー確立に寄与する叙述となることを期待したい。	自治体史編さんにおいては、様々な歴史資料を遍く調査、検証し、その結果明らかになった史実に基づく実証主義により編さんすべきものと考えます。そのような市史の編さんを通じて、市民の郷土への関心と愛着を深め、地域における連帯感やふるさと意識の醸成、高揚につなげるという本事業の目的が達成できるものと考えております。それが、延岡のアイデンティティー確立にもつながるものと考えております。	
16			自治体史において近現代をどう取り扱うか。ここには、膨大な関連資料をどう分類整理するかという課題がある。今回の市史編さんは歴史学習の基本文献となるわけで、小中学生から大人まで、それぞれのレベルに合わせた利用が可能となるよう、周到な編集がなされるべきであると思う。		
17			史料編を優先し、通史編を後にする考え方に賛同します。		自治体史の編さんに当たっては、文化財や発掘調査報告書、古文書など様々な地域の歴史資料を調査、研究のうえ史料編を編さんし、それを踏まえて通史編を編さんすることが一般的であり、本市もそのように考えているところです。今後、市史編さん基本計画の中でそうした方針等について定めていくこととしております。
18			新編市史編さん事業の進め方として、史料編さんを作成し、通史編さんを作成する形を予定しているとの事で、大変良い進め方だと思えます。		
19			全巻通じての「索引」、「年表」は、是非とも作成していただきたい。		成果物である市史は、様々な形で市民や研究者等が利用しやすいものになるよう、ご意見も踏まえ、他自治体の事例等も参考にしながら工夫して参ります。
20	編さん計画	構成内容	待ちに待った事業であるので、他市を真似るのでなく延岡のカラー、独自性を出してほしい。特に民俗関係を充実させてほしい。延岡におけるこの分野・領域での学問はほとんど具体的、体系的にまとめられておらず文献、資料も非常に少ない。方言も動物、昆虫、魚、植物、日常言葉と具体的にまとめてほしい。民間療法、火葬以前の土葬時の葬儀全般の地区の役割分担の呼び名等、延岡藩は6代にわたり藩主が変わってきたが、その都度民俗文化と一緒に持ってきたと思う。そのことも詳しく知りたい。(方言、民間信仰、呪い術等々)	市史の編さん方針、構成、記載内容等については、今後策定する市史編さん基本計画の中に盛り込む予定としており、それに基づき、編さん作業に当ることになります。豊かな歴史や文化を有する本市に相応しい市史となるよう、いただいた意見も踏まえ基本計画の策定等を進めて参りたいと考えております。	
21			延岡では近年自然災害が多発している。今後も地震や津波災害の懸念がある。資料のある限りの過去から、災害の実態を明らかにし、危険の顕在化、対策の周知などに繋がるよう、この市史編さんに期待する。		
22			近・現代史においては、三北(北浦・北川・北方)の合併のことも視野に入れながら、西南戦争、各時代の戦争と民衆、農村の暮らしと変遷、旭化成工業(株)の果たした役割～産業面のみならず、政治経済・社会・文化面でも～等についてもとりあげる。		
23			延岡から出た人、延岡に来た人、往来した人のような項目もつくれたらと思う。若山牧水のように少年期から青年前期にかけての多感な時期をこの地で送った人、柳田国男や徳富蘇峰のようにある目的をもって延岡にやってきた人もいる。単なる”郷土自慢”に終わることなく、そこから延岡の文化風土が見えてくる気がしています。		
24			「上代の日向延岡」(鳥井龍蔵;朝日新聞社)、家中ことば等々、見渡せば、延岡の歴史を究める材料は、記録から、記憶からまだまだ様々な形で残されていると思われる。市民の知恵と力に依拠しながら(無論、専門分野の人達にお願いしなければならぬ点も多くありますが)、延岡市民にとって誇りうるものができると思います。私で役立つことがあれば、なんでもしたいと思っています。		
25			街路図や周辺及び近郊の主要道路の変貌を取り上げ、古道、近世道、明治以降、戦後の変化を明らかにしてほしい。関連して地図類も現時点も含め古いものから極力集めてほしい。地名も掘り起し、大字、小字も含めて残して行きたい。		
26			巻の構成に、「神話」、「先賢」、「文化」、「文学」、「地名」、「方言」を加えていただきたい。史料編の中には、「写真集」、「地図集」、「絵図集」、「絵はがき集」、「系図集」を入れていただきたい。		
27			巻の構成について、最近、研究が進んでいる「神話」を是非、取り上げて加えてほしいと思います。日向神話を精査していただいて、新しい分野を切り拓いていただきたいと切に願っています。		
28	延岡市民、とりわけ、若い人たちが郷土に愛着を持ち、誇れるようなものに仕上げていただきたい。その意味では、延岡の「名君」、「先哲」などを1巻にまとめていただくとよろしいかと思います。通史では、特に藩政時代に光を当ててほしいと思います。				

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方
29		歴史資料調査	本市における地方文書の所在について、再確認を行い市史の充実を図っていただきたい。以前、明治大学が調査した結果、昭和41年に「旧内藤家藩領地方文書目録」が刊行されたと伺った。それ以降の古文書の所在調査が必要と思われる。	本格的な通史の編さんは、本市にとって初めての取組であり、延岡に係わる様々な歴史資料の悉皆調査は本事業の目的を達成するために不可欠であると考えております。そうしたことを念頭に置きながら、今後、調査対象や方法などの在り方等について、検討して参りたいと考えております。
30			およそ4万点ともいわれる明治大学所蔵「内藤家文書」を適切、十分に利用し、本市の近世史充実を図ることは大変重要なことで、市史の中核になるものと思う。「宮崎県史 史料編 近世」における「内藤家文書」の翻刻を精査し、市史に反映していただきたい。	
31			これまでの市史の積み上げを土台にしながら、近年の県史や市町村史等での成果等を考慮に入れる。「庄内地理誌」を活かしての都城市史や延岡内藤藩「萬覚書」等をもとに県史や日向市史における被差別部落と民衆のような視点等もとりあげる。	
32			民俗学の領域は広いため、例えばテーマを決めて、旧南方、旧恒富、旧岡富・旧東海ごとに、事前に調査内容、質問事項を詳細に書いたホームシートを作成し、市政連絡員(区長)等に依頼することでスムーズな聞き取り調査が出来るのではないか。調査依頼票を精査し、案件によっては学芸員等が出向き再確認をする。そうすることで地域の市史編さんへの盛り上がり、関心も高まり、またコスト削減にも寄与できるのではないか。	
33	編さん計画	市民参画	全市民が編さんに従事しているという意識をもつような仕掛けや仕組みを作っていただきたい。そのために、地区の公民館等に出向き、「市史とは何なのか」、「どういう市史をつくらうとしているのか」等の啓発活動をしていただきたい。また、「市史編さんだより」のようなものを発行して、市民の市史への関心を高めるとともに、「広報」やインターネットを通じて市民に情報提供を求めているいただきたい。	市史編さんに必要な様々な歴史資料等の収集、調査に当たっては、市民の協力は不可欠であると考えております。また、市史編さん事業の目的は、市民の郷土への愛着を深め、地域の連帯感やふるさと意識を高め、まちづくりに活かしていくことでもあります。このようなことから、多くの市民の皆様には様々な形で参画いただくとともに、時間の経過とともに散逸や消失が懸念される貴重な歴史的資料の調査にはスピード感をもって取り組んで参りたいと考えております。そのための方法、仕組みづくりについては、今後基本計画策定の過程等で検討して参ります。
34			市内外で様々な学習グループや自主活動に取り組んでいる会の「史料解説成果」とともに、そのようなグループ等と連携し、市史編さん事業に取り入れていくことも大切なことと思料する。	
35			市史編さんにあたっては、市民代表の意見を大いに取入れ、市民に愛され活用出来る市史を作ってください。市史は、延岡の宝・魂となるものであり、延岡を知り抜いている市民の声は貴重です。	
36			編さんに当たっては、深い見識を持つ人に話を伺い、資料に記載することも大切だと思う。古事記などの史料、読み下し、解説を適切に入れて、多くの市民が理解できる市史になることを願っている。また、山陰の一揆など、市内に限らず広域で捉えて記載することで市史の深みが増すと思う。少しでも早く先祖から受け継いだ伝承を知る人に聞き取りを行い、記録として残すことも必要と思う。	
37			方言や神楽、地域の祭りなどの文化資産については、地域の長老方が存命の間に早急な調査対応などが望まれる。困難ではあるが、編さんは極力スピード感を持って実施してほしい。そのために必要ならば、ボランティアなどの活用も考慮頂きたい。	
38	刊行計画		現在、全国において、管見の限りでは50近い都市が市史編さん事業を行っており、延岡市規模の領域と歴史を有する都市の既刊ないしは予定刊行物の内容と規模から見て、本市の事業概要にある刊行予定は極めて妥当と考えます。	市史の編さん方針、構成や刊行計画等については、今後策定する市史編さんの方向性を定めた基本計画のなかで示されます。編さん作業および刊行はそれに基づき進めていくこととなります。今回いただいた意見を踏まえ、今後、基本計画の策定を行って参りたいと考えています。
39			市史編さん事業の完成には、15年近く必要とする事から、史料編は1冊完成毎に刊行して下さい。	
40			延岡市制百周年に合わせての刊行ということだが、時代の流れが急速に変化するなかでは、現在の資料が2032年の刊行では陳腐化したものになる。できれば現代だけ先行して刊行することが望ましい。古代、中世、近代については、市制百周年に合わせてじっくり作成したほうが良いと考える。	
41			編さん期間が13年と長期になるが、まとめが出来たものから順次刊行することは大変良い。高齢者にとっては、出来たものだけでも早く見られることを期待する。	
42			史料編については、都城市に倣って17巻程度を想定しているとのことであるが、掲載する史料は取捨選択し、12巻程度にまとめるのが良いと考える。	
43			宮崎県史をはじめ、近年の各市町村史等にみられるように、通史編と史料編で構成されると思うが、通史ではやはり原始【考古】、古代、中世、近世、近・現代といった時代区分を各巻毎にやると良いと思います。史資料編は、各時代区分と共に民俗、文化財等が考えられる。	

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方
44	編さん計画	電子データ化	データはデジタル資料で残してほしい。修正がスムーズにできるし、またある一つの項目に関連したデータをまとめて抽出することができたら良いと思う。	市史編さん事業は、市史の刊行はもとより、様々な歴史資料の保存と活用、後世への継承を目的としており、本事業の成果物である市史や調査収集した歴史資料は市民や研究者等が広く活用できるようにすることが非常に大切であると考えております。そのための手段として、IT技術をはじめとした様々なツールの利活用について、今後メリット、デメリットを含め検討して参りたいと考えております。
45			市史は紙だけでなく、電子媒体で閲覧できるよう配慮頂きたい。また、インターネットなどでも閲覧できると、市史の活用の幅が広がると期待する。方言などは、デジタルの音声情報としての保存も必要と思われる。	
46			市民がいつでもどこでも効率的に利用できる、今日のSNS技術をフルに活用したシステムの構築を目指していただきたい。デジタル化すれば、紙媒体の印刷費用を抑えることができ、小・中・高・大学生、社会人、研究者など、それぞれのレベルやニーズに応じた編集もできるし、インデックスをつけることで多様な検索も可能となる。テキストデータだけでなく、画像データや動画データも容量を気にせず収録できるし、訂正・追補・改訂作業も容易となる。	
47			刊行物は、「紙媒体」と「電子媒体」の両方をお願いしたい。「紙媒体」は、IT弱者や危機管理上是非とも必要であり、「電子媒体」は、全世帯にわたり、市史の活用が可能となる。	
48			刊行物は、製本の形だけでなく、インターネットで検索して子供から大人まで幅広く活用出来る様にして下さい。学校現場で、延岡市の自然や豊富な歴史と文化等を知ることができ、子供の郷土愛を育てることに役立ちます。	
49			三重県亀山市がインターネットを使用した市史を作っておりその内容を見ると、誰でも市史を簡単に見ることが出来、手軽に知りたいことを手に入れることができる有難さを実感しました。是非ともインターネットでアクセス出来る延岡市史を構築して頂きたいと切望します。延岡市史もIT化されれば、子どもや若い人も気軽に活用するようになると思います。さらにIT市史であれば、改編が容易でリファインされていけるでしょう。多くの市民に利用されてこそ、市史の存在価値、有難さが高まるでしょう。	
50	データベース化	壮大な市誌(約17巻)を編さんされる構想ですが、「TRC-ADEAC」などを活用して、まずは延岡市に関するあらゆる(歴史)資料のデータベースを完成させるというのは如何でしょうか。この編さん事業を10数年かけて約17巻の市誌を編さんして終わりとしないうちにも、是非データベースを完成させていただきたいと思う。	編さんに当たっては、様々な歴史資料の調査、検証、研究が不可欠であり、また、これらの歴史資料を保存、活用していくことは本事業の目的の一つとなっております。このようなことから、この事業の成果は今回の市史編さんのみならず、今後の本市の歴史研究に活かしていくべきものと考えております。編さんの過程では、様々な歴史資料のデータベースが必然的に構築されることになると考えますが、このデータベースについては、将来に渡り、利活用しやすいものとなるよう、電子データ化も含め今後検討して参ります。	
51		新たな延岡市誌に関するイメージは、体系的で検索が容易な膨大なデータベースを背後に持つ書物としてはコンパクトな市誌です。未来に向けて延岡の様々な側面に関する研究が続くことを想定する。そんな市誌の編さんになると良い。		
52	組織体制	編さん組織体制については、全国の動向に鑑みても、事業概要の案で良いと考えます。延岡史談会といたしましても、でき得る限りの協力活動ができればと考えています。	先進都市の事例等も参考にしながら、所期の目的を十分達成できるよう事業の進捗に合せたスリムで効率的な組織体制の構築に努めて参ります。	
53		編さん事業を実施していくうえで、適切な人材を得ることは事業の成否の鍵ともなる。そこで、本市と関係深い明治大学関係者や城西大学研究者に「懇話会」や「編集委員」に就任してもらい、大所高所から助言いただければ良質な市史となるものと思うので、検討願いたい。		学識者等関係者からも広く情報を収集し、最適な人材の登用に努めて参ります。

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方
54			事業費が都城市の例(平成3年～17年)で出されていますが、10数年も昔の事、他市の事で前提の違いを考えると、途中段階での費用増分が心配です。事業費以外にも、市の職員の労務費も継続して必要になります。税金を使うとの観点で、本当にどこまでやるか。幅広く市民の声を、例えばアンケート等で聞くのも必要かと思えます。是非、若い人の意見を聞くことも努力して下さい。	現時点では、事業費の算定に必要な事業内容が確定していないため、同様の規模・内容で取り組んだ都城市史を例示させていただいたところです。本市の事業費もこれが一つの目安になると考えられますが、例えば事業費のうち大きな比重を占める調査費用も、調査対象となる歴史資料の範囲や量、所在地、また、編さんに携わるスタッフ人数やその研究拠点の場所等の実情によって差異が生じてきますので、今後、編さん方針や刊行計画等がより具体的にいった段階で見込まれる事業費を算出し、市民の皆様のご意見を伺う機会を設けることを考えております。
55	事業費	事業費	これまでの延岡史の歴史研究においては、既存の宮崎県史編さん時の史料収集がベースとならざるを得ず、また、県内他地域に広く目配りせねばならなかった県史編さんでは、延岡史に関する配分には自ずからの限界がみられました。今回の本市独自の市史編さんでは、遺漏無きよう全国の関係史資料を調査・収集すべきであり、その意味では全国に渡る膨大な史資料の調査収集と研究にはそれ相応の時間とコストが必要です。全国他市の例を見ても、例えば、平成27(2015)年度から市史編さんを進めている立川市の平成30年度の予算は4228万円、平成20(2008)年度から平成31(2019)年度の11年間で進めてきた松江市の本年度の予算が3979万円など、概ね単年度の予算が4000万円前後となっています。平成22(2010)年度から令和9(2027)年度の18年間で推進している福岡市もほぼ同様の状況です。この点からも、本市の事業概要に示された事業予算規模は、極めて妥当であると考えます。むしろ、悔いの無い市史編さんを進めるためには、より緻密な史資料収集と研究体制の深化が必要となりますので、十分な予算措置をお願いしたいと考えます。	長期にわたり、多数のスタッフ体制で取り組む事業であり、今後策定する市史編さん基本計画に基づき、効率的な組織体制の下、適切な進捗管理に努めて参ります。そのうえで、事業目的達成のため必要な予算の確保に努めて参りたいと考えております。
56			参考としている都城市の予算だと非常に厳しいのではないかと。多少の増額(1～3億円)は柔軟に考えてほしい。	
57			市政施行百周年を迎える令和14年度末を目途としていますが、膨大な資料の調査、発掘や検証に時間もお金もかかると思います。市史編さん体制を十分に整え、対応に当たってほしい。大変な事業に成るとは思うが、完成を心待ちにしている。	
58		その他	事業費は都城市の事業費5億2千万円が参考で示されているが、市制百周年事業として広く市民に寄付を募っても良いと思う。	事業費の財源確保にあたっては、いただいたご意見のように篤志家からの寄付や例えばふるさと納税の活用なども考えられるところであり、今後検討して参りたいと考えております。
59			大きなお金と時間と人をかけて作るものです。編さんおよび活用についてのPRをお願いします。既に編さんを終了している都城市がどう活用しているかを調査し結果を教えてください。このような事業は完成すれば、お蔵入りというケースが多々見られる。歴史記録を残す事も大事、継承活用するも大事と考える。	
60		活用	電子媒体での成果の公開や、編さん過程での調査研究成果の講演会・シンポジウムの開催や、新装なった内藤記念館での史資料の展示会・特別展などを通じて、市史編さん事業の成果の延岡市民への還元のみならず、広く「歴史文化都市延岡」の全国への公開と発信を行うことが肝要と考えます。	市史編さん事業は刊行物の完成をもって終わりとするのではなく、調査収集した歴史資料等も含めた保存と活用、後世への継承が大事であり、市史編さんと併せて、その後の活用策等についても検討して参ります。また、そのために、延岡の歴史を学び継承し未来を創造する拠点として整備する新内藤記念館、市立図書館等との連携の在り方についても検討を進めて参ります。
61			「内藤記念館」、「図書館」と「市史編さん」を連動し、市民に利用しやすいシステムを確立していただきたい。	
62	その他		新編市史編さん事業は、約15年と長くかかることから、実行計画書の発表・説明会から完成迄の間に途中の進捗状況の説明会を年1回は行って下さい。	ご意見のように長期にわたる事業であり、進捗状況を説明したり、得られた成果を還元するための機会を設けることは大切だと考えますので、その方法等については検討して参ります。
63		その他	市史編さんを一過性のものでではなく、恒常的なものとして位置づけ、そのための職員を配置し、常時更新できるようにしていただきたい。そのためにはIT化しておく必要がある。しかし、10年ごとには紙媒体としても発行していただきたい。	まずは、今回の市史編さん事業の完成に向け必要な組織体制を構築して取り組んで参ります。編さん終了後の取組みについては、現時点では未定ですが、しかるべき時点で検討して参りたいと考えております。
64			現在「図書館」に所蔵されている出北文書等は、新内藤記念館で一元管理して、デジタル化し、いつでも市民が利用できるようにしていただきたい。	
65			「図書館」の新聞を、昭和4年の延岡新聞から全ての新聞をデジタル化していただきたい。検索やコピーがし易くなり、新聞記事を格段に利用しやすくなる。	個別の資料の取扱いについては、現時点で明確な回答はできませんが、貴重な歴史資料の保存と活用等のあり方については、今後検討して参ります。